

1977. 7. 14

九州大学 大型計算機センターニュース

No. 142

福岡市東区箱崎6丁目10番1号
九州大学大型計算機センター
共同利用掛(TEL092-641-1101)
内線 2256

目 次

・ジョブ処理のバックアップについて	1
・M-160 利用説明会開催のお知らせ	3
・夏季期間中の業務について	4
・システム変更に伴うファイルの移行について	4
・PL/Iの実行形式プログラムについて	10
・センタニュース№136の訂正について	10

◇ ジョブ処理のバックアップについて

センターニュース№141でお知らせしましたようにFACOM230-75 (F75) システムからFACOM M-190 PPS (M-190) システムへの全面的な入れ替えのために9月21日(予定)から10月31日までセンターの計算業務を停止します。M-190はハードウェア、ソフトウェアともIBMシステム/370との互換性を重視して設計された機種であり、F75とはハードウェアの方式、オペレーティングシステムが異なりますので、新システムへの切り替えに当りプログラムの書き換えが必要となります。

このため、センターでは8月1日から10月31日までの3カ月間、福岡市内に設置してあるFACOM M-160 (M-190の下位機種で完全な互換性をもつ。演算速度はM-190の1/10程度)をセンター利用者が使えるようにいたしました。期間中8月1日から9月20日までは(F75稼動中)主にプログラムの書き替えのために使用していただきたいと考えています。なお、M-160の利用負担金はいただきません。

M-160で利用可能な言語処理プロセッサとしては、FORTRAN GE, FORTRAN HE, ALGOL, COBOL, PL/I, アセンブラ, LISPがあり、これらについてはカタログド・プロシジャ(従来のジョブ制御マクロ)を用意します。なお、入出力としてはカードリーダー(入力)、ラインプリンタ、ワークファイルだけが使用でき、共用ファイルなどは使用できません。

この期間の計算依頼、出力の返却はセンターが窓口となります。センターで計算を依頼する場合、センター1階のオープンカードリーダー・ステーションでジョブ・デックを読み込ませてください。それ以外の場合には連絡所を経由しての計算依頼となります(この場合ジョブ・デックの先頭に赤字で「バックアップ」と明記してください)。M-160でのジョブ・デックの構成法はFORTRAN

GEを利用する場合の例をとりますと表1のようになります。現在のジョブ種別に対応するものとしてジョブクラスをもちます。ジョブクラスとして利用できるものはA、Bです（8月1日から9月20日までにはAのみ）。ジョブ制限値はジョブクラスごとに決められ表2のようになります。この他に課題当りのジョブ件数を制限する改札機能を設けます。ジョブの返却は標準的にはセンター1階の返却棚に課題の下2桁で仕分け、MAIL指定（「//* MAIL9999」カードの挿入）がある場合に限り連絡所送りとなります。

なおM-160システムの利用法については簡単な利用の手引きを用意します。

表1. ジョブデックの構成例 (FORTRAN GE)

ジョブデックの構成	説明
//A000199 JOB F0001, PASSWORD	• パラメータの記述形式は現在のNO文, USER文と同じ (JOBは12欄, F0001は16欄から)
//* MAIL9999	• 連絡所送りの場合のみ指定する. 9999は連絡所番号でMAILの後1個の空白を空けて記述する.
//STEP1 EXEC FORTCLG	• カタログド・プロシジャ (FORTCLGの起動) STEP1のところは任意
//FORT. SYSIN DD *	• ソースプログラムの定義
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ソースプログラム</div>	
//GO. SYSIN DD	• 実行時データの定義
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">実行時データ</div>	
//	• ジョブの終了

表2. ジョブ制限値

期間	ジョブクラス	CPU時間 (F75換算値)	リージョンサイズ (KB)	LP枚数 [枚]	LP行数 [行]	改札
8月1日 ~9月20日	A	2分 (20秒)	512	20	1000	先着50件 課題当り 1件/日
9月21日 ~10月31日	A (標準)	4分 (40秒)	512	20	1000	先着120件 課題当り 2件/日
	B	18分 (3分)	1024	60	4000	

◇ M-160 利用説明会開催のお知らせ

M-160 システムの利用方法の説明会を下記の要領で実施します。定員になりしだい締切らせていただきますので、あらかじめ御了承ください。

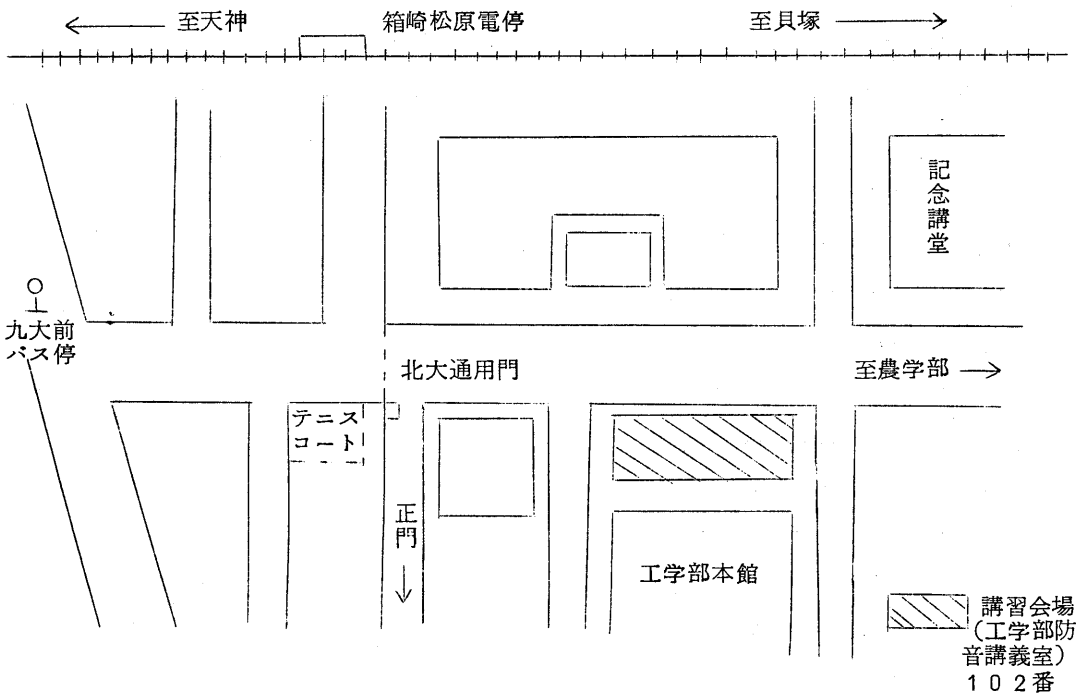
記

- ・期 日 7月28日(木)
- ・対 象 センター利用者
- ・募 集 人 員 120名
- ・会 場 工学部防音講義室102番
- ・時 間 割

10.00	10.30	12.00	13.30	16.00
<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブの依頼方法 ・結果の返却方法 ・障害処理の手続き 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブ制御文 	<ul style="list-style-type: none"> 昼 休 み 	<ul style="list-style-type: none"> ・現システムと新システムとのFORTRAN比較 ・質疑応答 	

・申 込 み 先 九州大学大型計算機センター共同利用掛 (2264, 2256)

・申 込 み 期 間 7月20日(水)～7月27日(水)



(共同利用掛 電(内) 2256)

◇ 夏季期間中の業務について

例年8月中旬に3日間程度機器保守のため計算サービスを停止していましたが、本年はサービス停止をいたしません。なお、9月下旬から機種入れ替えのため、現在のFACOM230-75システムが利用できなくなりますので、できるだけそれ以前に利用計画されますようお願いいたします。夏季期間中のプログラム相談日、時間につきましては、下記のとおり実施いたしますのでご了承ください。

記

- ・期 間 7月11日(月)～9月10日(土)
- ・曜 日 月曜日、火曜日、金曜日
- ・時 間 10:00～12:00

(共同利用掛 電(内) 2256)

◇ システム変更に伴うファイルの移行について

センター・ニュース№141でお知らせしましたように、11月1日より新システム(M-190, OSN/F4)によって計算サービスを行う予定です。

現システムと新システムとのハードウェアおよびソフトウェアの違いから、現システムで使用しているファイルを新システムにおいても利用する場合には、一部を除いて変換作業を必要とします。

これらの作業はデータの記録媒体、ファイル属性、データ形式によってその方法が異なります。記録媒体として磁気テープ(専用ボリューム)とディスク・バック(共用ボリューム)、ファイル属性として順編成と分割型順編成および転送モード(TM0D=8または9)、データ形式として文字形式とバイナリー形式があります。

1. 専用ボリューム(磁気テープ)の場合

新システムの磁気テープ装置は現在の装置で書いたデータのリードができません。また、新システムでは、磁気テープの記録密度は1600bpiを標準とします。このため、現在の標準ラベルの磁気テープ、ファイルを新システムで継続して使用する場合には、必ずデータの変換をしなければなりません。その方法は次のとおりです。

① 変換を希望する磁気テープの専用ボリューム登録申請書(センター受付または連絡所に準備)

を8月13日(土曜)までにセンター受付窓口に提出または郵送(利用者保管の磁気テープの場合は、磁気テープも添えて)してください。センターでは申請のあった利用者の磁気テープの内容を作業用磁気テープにコピーし、その作業用磁気テープのボリューム通番と新システム用にイニシャライズされた利用者の磁気テープのボリューム通番をお知らせします。

利用者はこの作業用磁気テープを入力用とし、イニシャライズされた利用者の磁気テープを出力用として用い、データの変換を行うこととなります。

例 下記登録申請書が提出されなかったセンター保管の磁気テープについては、現システム限りで取り消しとみなし、9月の業務停止後利用者に返却致します。

例

専用ボリューム登録申請書 年 月 日

課題番号					登録名						氏名	
連絡先	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> - <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 市外局番 () () - () 内線 ()											

ボリューム通番*						イニシャライズ注1	<input type="checkbox"/> 有
種別	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 更新 <input type="checkbox"/> 取消 <input type="checkbox"/> 持出 <input type="checkbox"/> 持込						
ボリューム種別	磁気テープ (<input type="checkbox"/> 2400フィート <input type="checkbox"/> 1200フィート <input type="checkbox"/> 600フィート <input type="checkbox"/> 300フィート)						
使用法	(1) <input type="checkbox"/> 入力用 <input type="checkbox"/> 出力用 <input type="checkbox"/> 入出力共用 <input type="checkbox"/> 作業用 (2) <input type="checkbox"/> プログラムファイル <input type="checkbox"/> データファイル						
使用期間(持出期間)	年 月 日 ~ 年 月 日						
保管法	<input type="checkbox"/> センター保管 <input type="checkbox"/> 利用者保管						
備考							

上記の申請を承認します

年 月 日 九州大学大型計算機センター長 ㊟

イニシャライズ処理日*		担当者*	
返却日*		担当者*	

注) 「*」はセンターが記入します。

注1. イニシャライズを必要としない場合は備考欄に理由を記入してください。

私用ファイル申請者控

受付番号*		受付日*		担当者*	
-------	--	------	--	------	--

- ② 作業用磁気テープのファイルを、そのファイル属性（転送モード）およびデータ形式によって次のように変換し、TMOD=9でデータ形式が文字形式であるファイルを作成してください。

転送モード	データ形式	作成例	変換方法	備考
TMOD=8	文字形式	FORTRANの書式つき WRITE文で作成	YMTCONV89	制御文の詳細は別記
TMOD=9	"	"	YMTCOPY	制御文については別記 単にファイルをコピーするのみ
TMOD=9	"	カード・イメージのソースまたはデータをLIBEで作成 (エレメント・セパレータなし)		
TMOD=8	"	カード・イメージのソースまたはデータをエレメント名指定で作成 (エレメント・セパレータつき)	YMTLIBE CV89 MTNEW0, MTOLD0 (エレメント名) FIN YSLFILE MTOLD0, ファイル名, 入力ボリューム通番 UNIT=MT2 YSLFILE MTNEW0, ファイル名, 出力ボリューム通番 FILE=NEW, UNIT=MT2 [, FLADD=YES]	・エレメント毎にファイルを構成しなければならない。 ・変換作業をせずに共用ボリュームに転送する方がのぞましい。
TMOD=8	バイナリ形式 (データ)	FORTRANの書式なし WRITE文で作成	TMOD=9を指定し、書式つき WRITE文で作成する。	変換プログラムを作成しなければならない。

次期システムでは、現システムの相対形式プログラム（RB）および実行形式プログラム（EB）は使えなくなりますので、バイナリ形式は変換の意味がありません。

変換作業に要したジョブはキャンセルできますので9月17日（土曜）までに受付窓口へリストを添えて提出してください。

また、9月19日（月曜）以降、作業用磁気テープは使用できなくなります。

2. 共用ボリュームの場合

F230-75システム(M-VII)で作成したファイルのうち、新システム(OSN/F4)においても利用できるデータおよびその変換方法は次のとおりです。

ファイルの属性	データ形式	作成例	変換方法	備考
編成 転送 モード				
順編成	8	文字形式 FORTRANの書式つきWRITE文で作成	¥ ALLOCATE ¥ DACONV89 ¥ FLEXPD	制御文については別記
	9	"	"	センターで変換する
分割型 順編成	8	バイナリ形式 FORTRANの書式なしWRITE文で作成	TMOD=9を指定し、書式つきWRITE文で作成する	変換プログラムを作成しなければならない
	8	文字形式 ソースまたはデータ・エレメントをLIBEで作成		センターで変換する エレメント名にピリオドがあればこれを“#”におきかえる。

(注) 上記以外のファイルまたはエレメント、および変換をしていないファイルは現システムの業務停止(9月21日)後、一切使用できなくなります。

また、9月30日でファイルの有効期限が切れるファイルは上記の変換を行なっても強制的に消去されますので注意してください。

制御文の説細説明

① ¥MTCOPYマクロ

マクロ名	パラメータ
¥MTCOPY	入力ボリューム通番, 出力ボリューム通番, FILE=(ファイル名, ...) [, NEW=NO] [, STEP=n] [, OUTPUT=REMOTE]

パラメータの説明

パラメータ	説明	省略したとき
入力ボリューム通番	入力側磁気テープつまり作業用磁気テープのボリューム通番	省略できない
出力ボリューム通番	出力側磁気テープつまりイニシャライズ後の磁気テープのボリューム通番	
FILE= (ファイル名, ...)	指定したファイルをコピーする。各ファイル名は入力磁気テープのファイル順に“,”で区切る。	
NEW=NO	出力側磁気テープにすでにファイルを作成しているとき、マルチファイルを構成する。	ボリュームの先頭よりコピーする。
STEP=n	1ジョブ中¥MTCOPYを複数個使用するとき、異なった番号で指定する。	番号1がはいる
OUTPUT= REMOTE	リストの出力先を端末とする。	センターに出力される

② ¥MTCNV89 マクロ

マクロ名	パラメータ
¥MTCNV89	入力ファイル名, 入力ボリューム通番, 出力ファイル名, 出力ボリューム通番 [, FLAD=5] [, STEP=n] [, OUTPUT=REMOTE]

パラメータの説明

パラメータ	説明	省略したとき
入力ファイル名	変換したいファイルのファイル名	省略できない
入力ボリューム通番	作業用磁気テープのボリューム通番	
出力ファイル名	新しく作られるファイルのファイル名	
出力ボリューム通番	イニシャライズ後の磁気テープのボリューム通番	
FLAD=5	出力側磁気テープにすでにファイルを作成しているとき、マルチ・ファイルを構成する	FLAD=2となり、ボリュームの先頭より新ファイルを作成する

STEP=n	1ジョブ中¥MTCNV89を複数個使用するとき異った番号で指定する。	STEP=1となる
OUTPUT= REMOTE	リストの出力先を端末とする。	センターに出力される

③ ¥DACON V89 マクロ

マクロ名	パラメータ
¥DACONV89	入力ファイル名, 出力ファイル名 (, STEP=n) (, OUTPUT=REMOTE)

パラメータ	説明	省略したとき
入力ファイル名	変換したいファイルのファイル名 ユーザ名・ファイル局所名	
出力ファイル名	¥ALLOCATEマクロで確保した新ファイルのファイル名 ユーザ名・ファイル局所名 但し入力ファイル名と同じにはならない	省略できない
STEP=n	1ジョブ中このマクロを複数個使用するとき, 異った番号を指定する	STEP=1となる
OUTPUT= REMOTE	リストを端末に出力する	センターに出力される

使用例

ファイル名F0001・Aというファイルの内容を変換して, ファイル名F0001, Bというファイルに出力する。

```

¥ALLOCATE      B, 確保量, PS
¥DACONV89      F0001. A, F0001. B
¥FLEXPD        F0001. B

```

(業務掛 2255)

◇ PL/Iの実行形式プログラムについて

PL/Iの実行形式プログラムはYRUNマクロで実行できますが、データのファイル定義名がFORTRAN等と違ってしますので必ずINFDNAME=SYSINのパラメータを指定してください。

例

YNO

YUSER

YQJOB

YRUN EBNAME=PL1.EB, EBFLNAME=F100.USER, INFDNAME=SYSIN

デ	ー	タ
---	---	---

YJEND

(研究開発部 電(内) 2261)

◇ センタニュース版136の訂正について

“アプリケーション・プログラムMULVA/Xの使用方法の変更について”の中に誤りがありました。お詫し、訂正いたします。

頁	行	正	誤
7	12	DISC F01, F02, F03, F04, F08	DISC F01, F02, F08

(研究開発部 電(内) 2261)